

【概要】令和8年度 雫石町町民意識調査結果

第1章 調査概要

1. 調査目的

町の計画に対する、町民の意識の動向、町の施策、まちづくりに対する要望などを把握し、また、協働による住みよいまちづくりを推進していくための資料を取得する。

2. 調査内容

- (1) 調査地域 雫石町全域
- (2) 調査対象者 雫石町に在住する18歳以上80歳未満
- (3) サンプル数 450人
- (4) 抽出方法 無作為抽出
- (5) 調査方法 町統計調査員、インターネット
- (6) 調査期間 調査員による調査 R8. 7. 2～7. 31
- (7) 回収数 340人 (75. 5%)

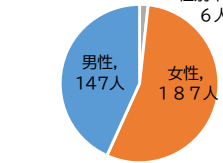
3. 主な調査項目

- (1) 回答者属性について
- (2) 第三次雫石町総合計画について
- (3) まちづくり・暮らしなどについて
- (4) 子育てについて
- (5) 自由記載欄について

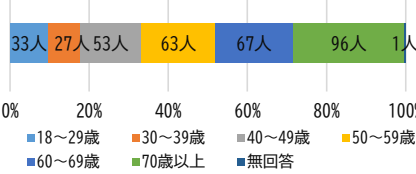
第2章 調査結果

1. 回答者属性

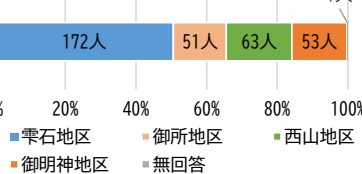
(1) 回答者性別



(2) 回答者年齢



(3) 回答者居住地域

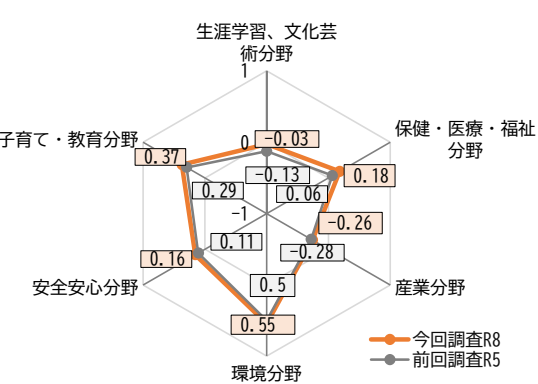


2. 満足度・需要度について

(1) 満足度について (全体)

◆分野毎の平均評定値による満足度の比較

満足度について、平均評定値※1の分野毎の平均をみると、環境分野が最も高い値 (0. 55) となっており、次いで子育て・教育分野が高い値 (0. 37) となっている。生涯学習、文化芸術分野と産業分野は、マイナスの値となっており、「満足していない」という意見が過半数を超えている状態となっている。前回調査時 (R5) と比較すると、全ての分野で平均評定値が改善されている。

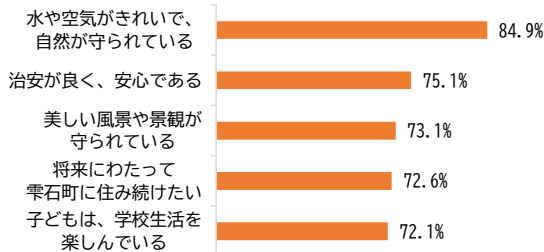


※1 平均評定値…回答を得点化(「そう思う」を+2点、「まあそう思う」を+1点、「あまりそう思わない」を-1点、「そう思わない」を-2点、「分からない」を0点)にし、この平均を求めたもの。したがって、+2点に近いほど「肯定(好意的)」、逆に-2点に近いほど「否定(非好意)」であり、プラスの数値の場合は肯定的な回答が否定的な回答を上回っている状態を示す。

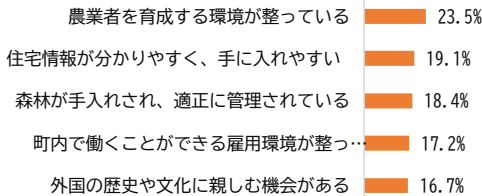
◆満足度割合による比較 (項目毎)

調査項目毎の満足度について、「そう思う」「まあそう思う」と回答した人の割合の合計値を「満足度」とし、項目毎に比較した場合について、上位5項目と下位5項目は、下記のとおりとなっている。54項目中26項目において、満足度が50%を超える結果となった。

満足度 (項目毎) 上位5項目



満足度 (項目毎) 下位5項目



◆満足度前回調査時との比較 (項目毎)

調査項目毎の満足度について、前回調査時との比較では、53項目中37項目が前回よりも改善されている。上位5項目と下位5項目については、下記のとおり。

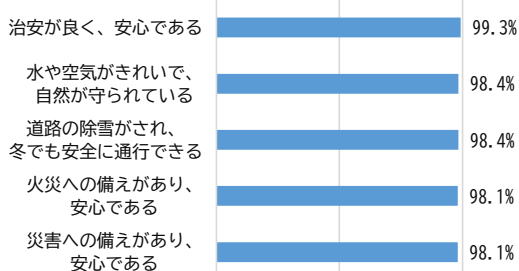
上位5項目	前回調査時の満足度との差	下位5項目	前回調査時の満足度との差
子育てをする家庭へのサービスが整っている	+12.4ポイント	子どもは、学校生活を楽しんでいる	-9.9ポイント
子どもが雫石高校に在学している、あるいは進学させたい	+12.4ポイント	子どもは、給食をおいしく食べている	-6.5ポイント
人権が尊重され、一人ひとりが大切にされている	+9.6ポイント	美しい風景や景観が守られている	-5.2ポイント
子どもからお年寄りまで、歩行者が安心できる	+9.1ポイント	道路の除雪がされ、冬でも安全に通行できる	-4.8ポイント
学校は、安全で安心できる環境である	+9.0ポイント	治安がよく、安心である	-4.3ポイント

(2) 重要度について (全体)

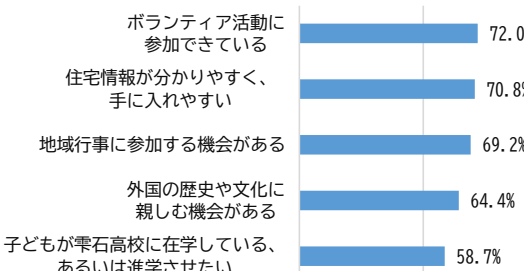
◆重要度割合による比較 (項目毎)

重要度の設問について、「非常に大切である」「大切である」と回答した人の割合の合計値を「重要度」とし、項目毎に比較した場合について、上位5項目と下位5項目は、下記のとおり。50項目中31項目で90%を超える高い割合となっている。

重要度 (項目毎) 上位5項目



重要度割合 (項目毎) 下位5項目



◆重要度前回調査時との比較 (項目毎)

調査項目毎の重要度について、前回調査時との比較では、49項目中4項目の重要度が前回よりも改善されている。上位5項目と下位5項目については、下記のとおりとなっている。

上位5項目	前回調査時の重要度との差	下位5項目	前回調査時の重要度との差
子どもが雫石高校に在学している、あるいは進学させたい	+2.7ポイント	教育の相談や支援を必要に応じて受けることができる	-9.3ポイント
体調が良く、健康的な生活を送れている	+0.8ポイント	学校の先生に気軽に相談できる	-8.3ポイント
治安が良く、安心である	+0.3ポイント	今後も雫石町で子育てをしていきたい	-6.6ポイント
商店街で買い物、飲食をすることができる	+0.3ポイント	省エネルギーや自然エネルギーが身近である	-5.6ポイント
水や空気がきれいで、自然が守られている	-0.0ポイント	町内で働くことができる雇用環境が整っている	-5.6ポイント

【項目数の定義】本調査の全設問数は、58項目(満足度・重要度を測定する「基本50項目」、満足度のみを測定する「まちづくり4項目」、その他「協働2項目」「シティブロモーション」「スポーツ」各1項目)。「満足度割合による比較」では、「基本50項目」「まちづくり4項目」の計54項目を母数とし、満足度の前回調査時(R5)との比較においては、前回比較可能な53項目(「基本49項目」「まちづくり4項目」)を対象としている。「重要度割合による比較」では、「基本50項目」を母数とし、重要度の前回調査時(R5)との比較においては、前回比較可能な49項目を対象としている。

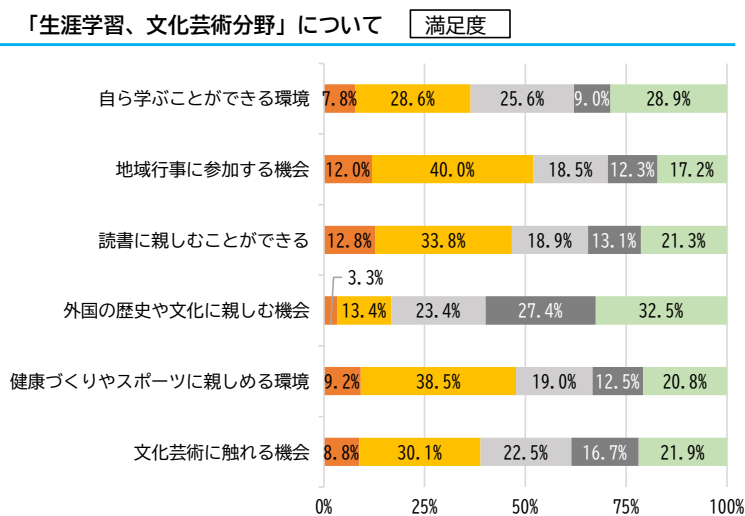
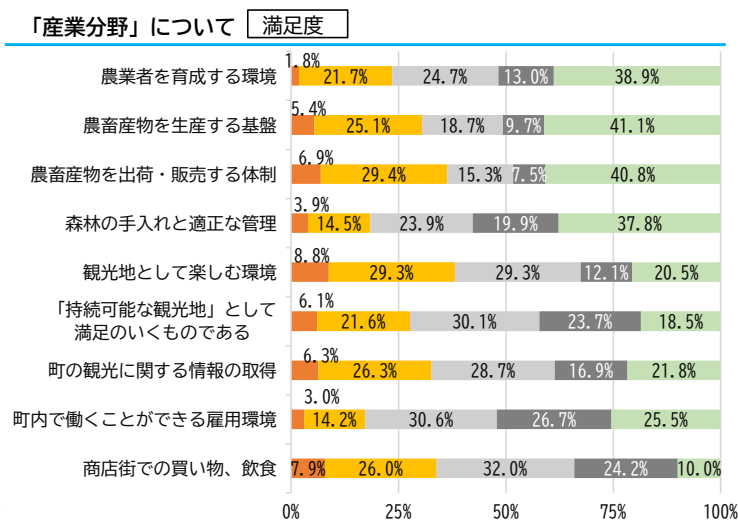
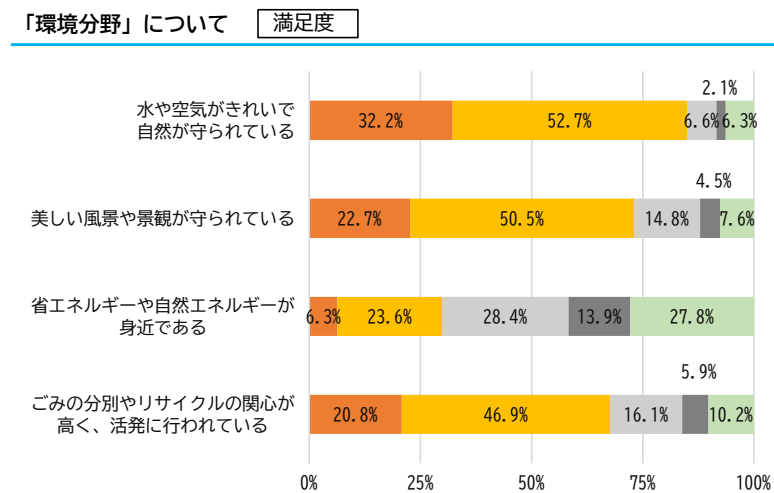
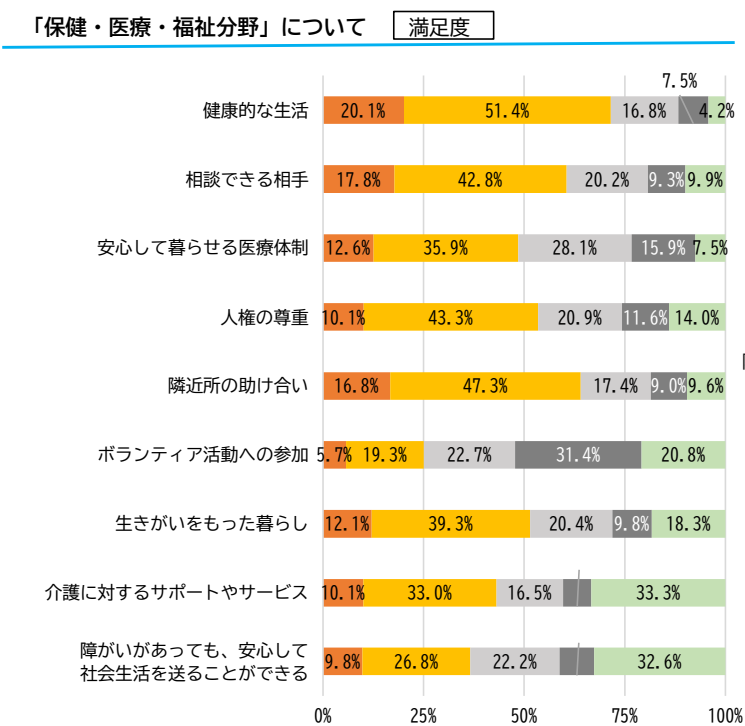
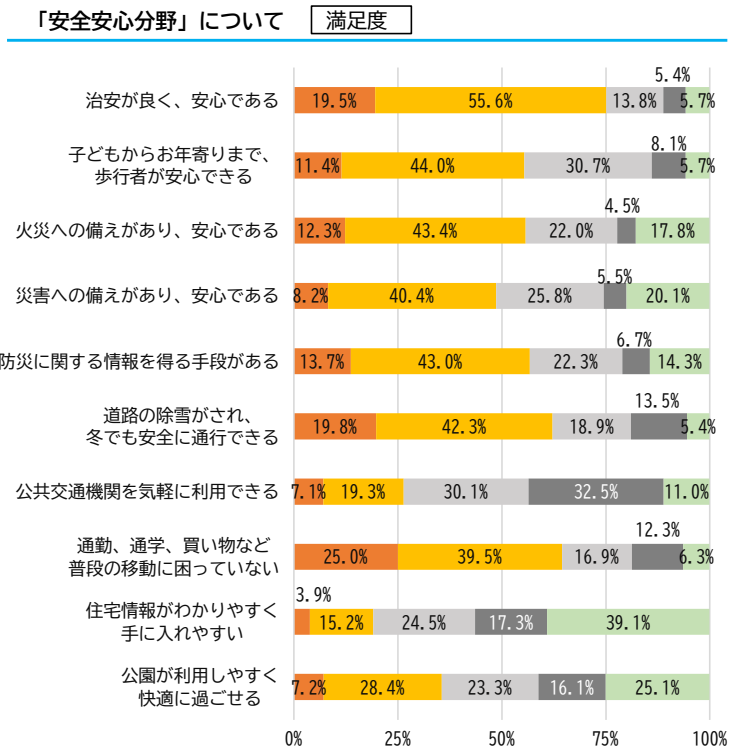
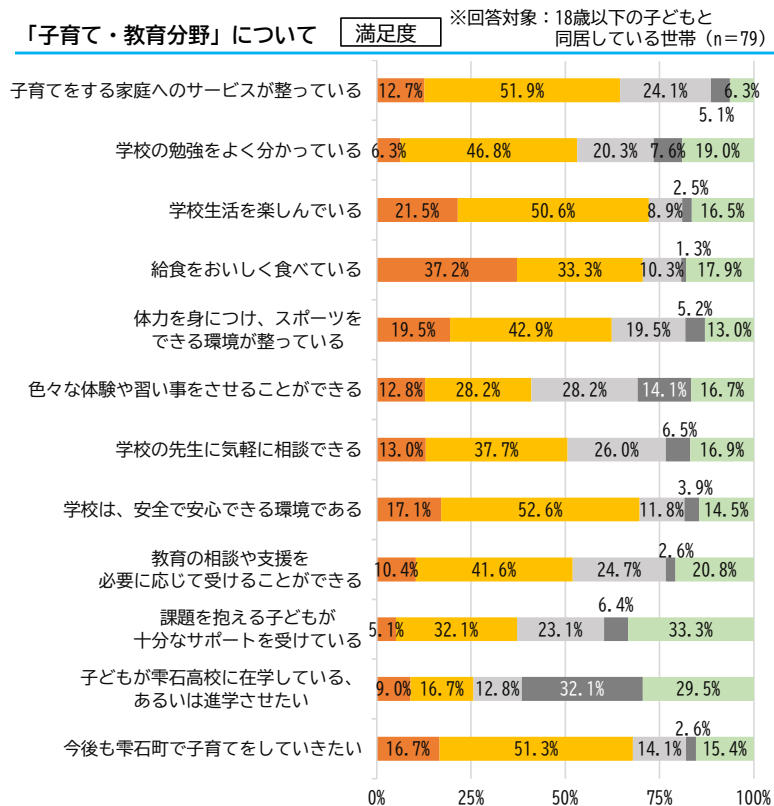
【概要】 令和8年度 雫石町町民意識調査結果

第2章 調査結果

3. 第三次雫石町総合計画について

第三次雫石町総合計画による各施策に係る設問の満足度について記載する。

凡例 ■ 満足 ■ やや満足 ■ あまり満足していない ■ 満足していない ■ 分からない



【概要】 令和8年度 雫石町町民意識調査結果

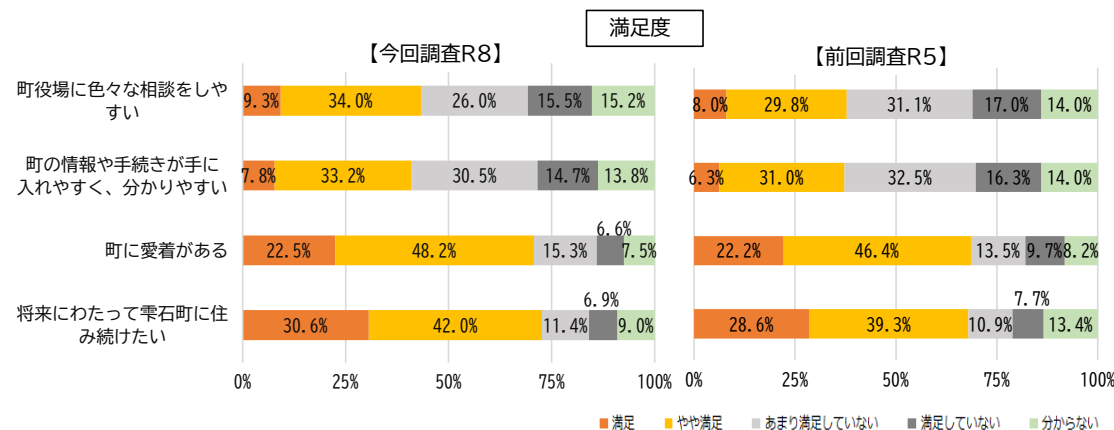
第2章 調査結果

4. まちづくり、暮らしなどについて

まちづくりや暮らしなどに関する設問について記載する。

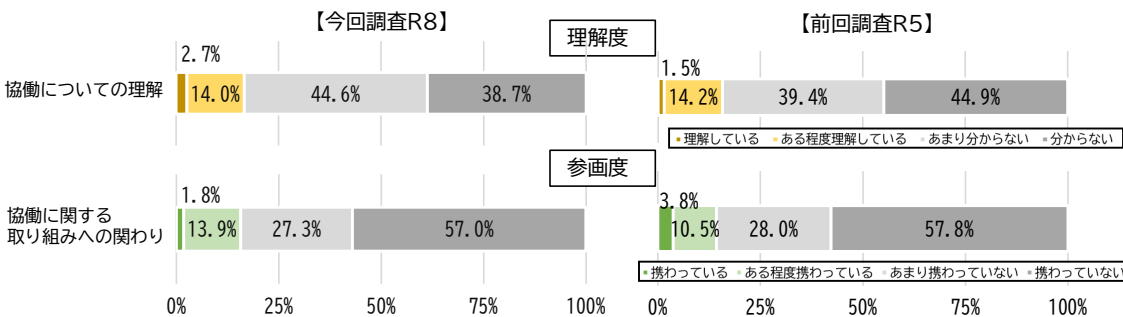
まちづくりに関する設問について

まちづくりに関する各設問の満足度について、前回調査時と比較すると、4項目とも前回よりも改善され、「町役場に色々な相談をしやすい」は最も改善され、前回調査時よりも5.5%増加している。



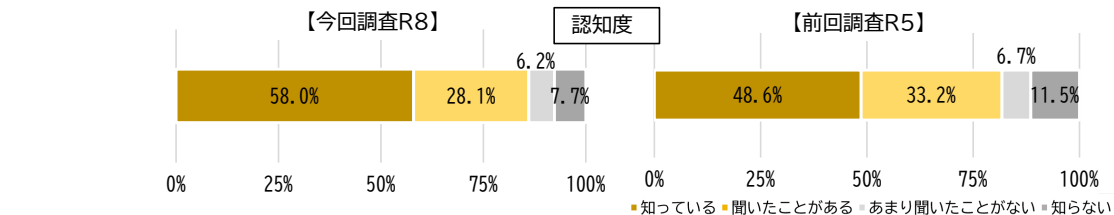
協働について

「理解している」「ある程度理解している」と回答した人の割合の合計値を「理解度」とすると、理解度は16.7%となっており、前回調査時よりも1.0%増加している。協働に関する取り組みに「携わっている」「ある程度携わっている」と回答した人の割合の合計値を「参画度」とすると、参画度は15.7%となっており、前回調査時よりも1.4%増加している。



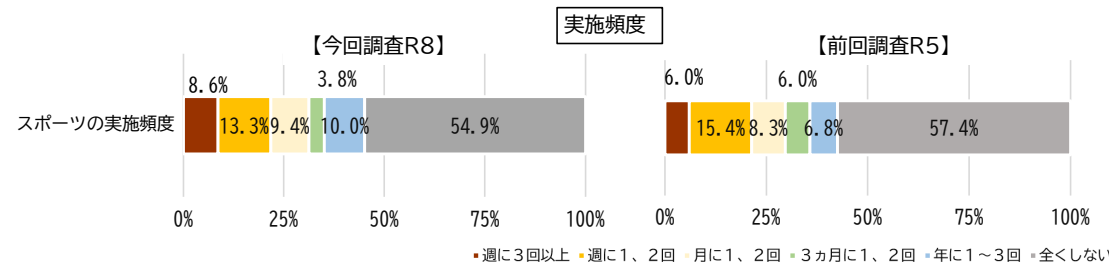
「シティプロモーションの認知度」について

「知っている」「聞いたことがある」と回答した人の割合の合計値を「認知度」とすると、認知度は86.1%となっており、前回調査時よりも4.3%増加している。



スポーツについて

スポーツの実施頻度に関する設問は、週に3回以上実施している割合は、8.6%となっており、前回調査時よりも2.6%増加した。週に1、2回の実施割合は13.3%で前回よりも2.1%の減少、月に1、2回の実施割合は9.4%で前回よりも1.1%の減少、3カ月に1、2回の実施割合は3.8%で前回よりも2.2%の減少、年に1～3回の実施割合は10.0%で前回よりも3.2%の増加、全くしない割合は54.9%で前回よりも2.5%減少した。



満足度と重要度の偏差値※2の散布図について

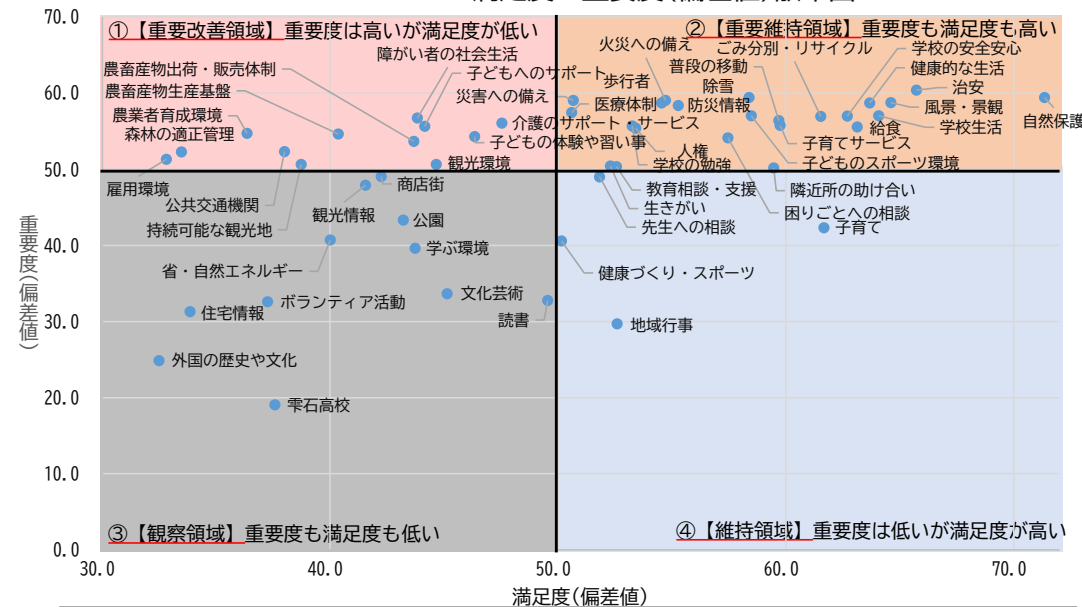
調査項目に対する満足度「そう思う、まあそう思う」、重要度「非常に大切、大切」を偏差値として数値化して、町民の意識においてそれぞれの項目がどのような位置にあるかを表したものの。

- ①重要改善領域 …重要度は高いが満足度が低い領域。
- ②重要維持領域 …重要度も満足度も高い領域。
- ③観察領域 …重要度も満足度も低い領域。
- ④維持領域 …重要度は低いが満足度が高い領域。

重要改善領域では、優先的に改善に取り組む必要があると思われる一方、観察領域や維持領域においては、優先順位をつけながら見直し等が必要。

※偏差値は今回の調査結果内の比較であることに注意が必要であるほか、左下の観察領域にあっても、町として推進する必要がある場合があり、例えば「省・自然エネルギー」や「雫石高校」の項目のように、町民の意識とギャップがある場合においても注意が必要。

満足度・重要度(偏差値)散布図



※2 偏差値…様々な項目の中でどのくらいの位置にいるかを表す数値で、平均点を偏差値50になるように変換し、その基準からどのくらい高いまたは低い点数だったかを表す数値。